

未来を生きる児童生徒にICTは「あったらよいもの」ではなく「なくてはならない」マストアイテムです。本市はこの考えのもとに全国有数のICT環境を整え、既に国が示すICT環境整備目標（右図）を達成しています。現在、全国的に「GIGAスクール構想の実現」に向けた取組が進められる中、本市ではこの充実した環境を生かした実践のフェーズに入っています。各学校ではICTを「学びのマストアイテム」として日々の授業に位置付けるとともに、教育に関する先端技術を活用した実践研究にも取り組みました。こうした取組を通して、各学校におけるICTの利活用は着実に推進されています。

## 国のICT環境整備方針目標（2022年まで）

- 学習者用コンピュータ 3クラスに1クラス分程度整備
- 指導者用コンピュータ 授業を担当する教師1人1台
- 大型提示装置・実物投影機 100%整備  
各普通教室1台、特別教室用として6台  
（実物投影機は、整備実態を踏まえ、小学校及び特別支援学校に整備）
- 超高速インターネット及び無線LAN 100%整備
- 統合型校務支援システム 100%整備
- ICT支援員 4校に1人配置

**戸田市では  
全項目を達成**

文部科学省「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」より

## 日々の授業でICTをマストアイテム化



協働的な学びのルール



思考の可視化・共有化



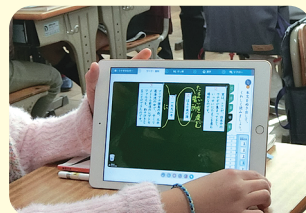
PBLにおける活用



プログラミング教育



遠隔会議システム活用（左：香港日本人学校との交流／右：教員研修）



学習者用デジタル教科書



オンラインCBTの取組

## 先端技術等を活用した実践研究

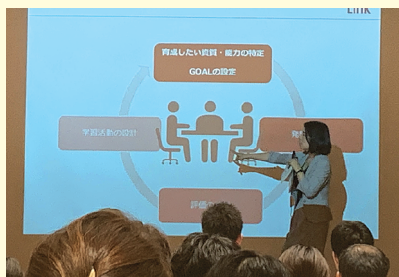
# PBL

## 授業実践を推進するための取組

### ■今年度の取組 —実践ベースの推進体制の確立—

昨年度に引き続きPBLの理解を深めるための視察や、研修会等を進めつつ、実践段階となる今年度は、各校における実践を後押しすべく、戸田市PBL-STEAM教育アドバイザー制度を創設し、インテル株式会社の竹元賢治様と株式会社WiLの遠藤慶太郎様にアドバイザーの委嘱をしました。竹元様には、Intel社の教員研修プログラムであるIntel@Teachプログラムに基づく知見やネットワークを元に、市主催のPBL研修や実践家を招いた校内研修等を多数コーディネートいただきました。遠藤様には、社会人のイノベーター育成経験やノウハウを元に、小学校での校内研修の

他、今年度から起ち上がったセンター研究員「イノベーション教育・PBL研究部会」における講演や授業づくりの指導をしていただきました。その他、PBLに知見をもつ、株式会社キャリアリンクの小池紗也香様による市内小・中学校における9年間の一貫カリキュラム作成に向けた研修や、北陸大学教授の藤岡慎二様による中学校のカリキュラム開発の御支援をいただきました。今年度は、産学官連携による推進体制が充実したことにより、その結果、各校において多くの実践事例が創出されるなど、市内全校においてPBL推進に向けた機運が醸成されました。



## PBLの成果

（第4回戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会の様子）



プレゼンテーションを動画でご覧いただけます。

※動画共有サイト『You Tube』に移動します。



市内全小中学校がPBLの一環としてプレゼンテーションをしています。